

ノルウェー王国 リレハンメル市との交流事業

ノルウェー王国と親交のあったシャトー塩沢スキー場（黒川建設シャトーグループ）の取り計らいにより、塩沢町とノルウェー王国のリレハンメル市が、ともに冬季観光地としての諸条件や自然環境が似ているということから、昭和48年に冬季国体が塩沢町で開催されるのを機に昭和47年8月12日ノルウェー王国において調印、同年10月3日当町議会において議決され、以降、ノルディック王国ということもあり、クロスカントリースキーを中心とした交流を深めている。

〈ノルウェー王国リレハンメル市の概要〉

北欧ノルウェー王国の首都オスロ市の北約180kmにある国内最大のミヨーサ湖畔に位置し、彫金の町として有名でスプーン・フォーク等食器類やその他農林業、牧畜、鉱業及び観光の町として発展し、福祉行政も進んでいる。

また、オップラン県の県庁所在地で、人口約2万3千人、面積481km²、昭和52年8月に150年記念式典を挙げた。博物館や文化財的な建築等が集められ、多数の参観人が訪れる。平成6年には、冬季オリンピックが開催されている。

1. 交流の歴史

昭和47年8月12日

姉妹都市盟約ノルウェー王国において調印。

昭和47年10月3日

姉妹都市盟約について塩沢町議会で議決。

昭和47年12月18日

シャトー塩沢スキー場、吉里ロジ前において、ノルウェー王国日本大使ご夫妻等を招き、樅の木を記念植樹し、その後町議会議員をはじめ町民も加わり交歓会を行い、小中学生の作品交流も行った。

昭和52年8月10日

リレハンメル市150年記念式典に招請され、塩沢町長をはじめ議会議長等が参加。

昭和53年2月15日

ノルウェー王国皇太子の特別な配慮により、ノルスケ・ソリストコール合唱団が来町し、シャトーテルー本杉ホールにて親善公演が開催された。

昭和55年1月27日

駐日大使ご夫妻や日本ノルウェー協会会員を招いて、第1回ノルウェー大使杯争奪ノルディックスキー大会が開催された。

昭和56年3月22日

日本ノルウェー協会名誉会長三笠宮寛仁殿下をお迎えして、第2回大会が開催された。

第1回大会以降、毎年、大使ご一家や大使館関係者らを招いて開催し、その都度塩沢小学校の子供達から大使を通じ種々の作品が手渡され、リレハンメル市の子供達からも多くの作品が届けられている。

平成5年3月4日～8日

姉妹都市提携20周年及びリレハンメル冬季オリンピックを記念して、リレハンメル市より中学生10名をはじめリーエン副市長らを第14回大会に招待し、大会にリレハンメル市の中学生も参加し、地元の子供達と腕を競い合い、競技終了後は、交流広場で餅つきや雪合戦等を楽しみ友好を深めた。

また、両姉妹都市の中学生による交流会や町民参加の親善パーティーも開催された。

平成6年2月14日～21日

リレハンメル冬季オリンピックの開催を記念し、招待を受ける。第14回ノルウェー大使杯争奪スキー大会の各クラス優勝者や塩沢中学の生徒、町長ほか15名の訪問団が訪問し、競技観戦や各種招待行事に参加した。

平成7年8月30日

リレハンメル地域のビジネス紹介等の協議のため来日。リレハンメル市行政関係者や地域の会社より3社、ノルウェー貿易審議会など一行8名は、町執行部、議会代表、商工会、観光協会及び関係団体とビジネスの可能性について情報交換を行った。

平成7年11月3日

しおざわ産業まつりに、リレハンメル市及び産業紹介のため代表が訪れ、展示販売などを行うと共に町内の事業者を訪問し、経済活動について会談を行った。

平成10年2月5日

長野冬季オリンピックの開催に際し、オードン・トロン市長ご夫妻や商務部長、地方紙記者らの5名が来町し、町長との懇談に合わせて、塩沢小学校から子供達の作品を贈呈した。

平成10年2月11日

長野冬季オリンピック会場に開設された長野ノルウェー村に招待を受け、町長らが現地を訪問した。

平成10年3月

第4回新潟国際ジュニアビエンナーレにリレハンメル市内の中学校より作品の応募があり、内1点が銀賞に入賞を果たした。

平成12年8月

町長と議長他7名の議員が新市長を表敬訪問し、リレハンメルの福祉施設を見学

平成14年

姉妹都市盟約30周年（特に記念事業はない）

2. 印象に残るエピソード

リレハンメル冬季オリンピックや長野冬季オリンピックの開催に際し、塩沢町に対しても招待があり、代表らが訪問して、世界的な祭典に参画できたことは、町民にとって大きな誇りにつながっている。